

秋田大学COC事業
(平成29年度実績)

外部評価書

平成30年11月30日

秋田大学COC事業外部評価委員会

目 次

I. 外部評価委員会実施概要	1
II. 外部評価結果一覧表	2
III. 各外部評価委員の講評	3
IV. 平成 29 年度 C O C 事業に関する外部評価実施要領	8
V. 外部評価委員会資料	別添

I. 外部評価委員会実施概要

1. 日時：平成30年11月30日（金）10：15～12：15

2. 場所：秋田大学百周年記念館 2階会議室

3. 出席者

(1) 外部評価委員

委員長 一般財団法人秋田経済研究所 専務理事 相原 学氏

委員 社会福祉法人秋田県社会福祉協議会 事務局長 佐藤 寿美氏

委員 秋田県 あきた未来創造部長 湯元 巖氏 代理 同部次長 真壁 善男氏

*委員 秋田県立大学 生物資源科学部長 金田 吉弘氏は評価シートを事前提出し当日は欠席

(2) 秋田大学関係者

理事 志立 正知

地方創生センター教授 水田 敏彦

地方創生センター准教授 鎌滝 孝信

医学系研究科教授 中村 順子

国際資源学研究科教授 今井 忠男

地域創生推進役（兼）COC+推進コーディネーター 高橋 訓之

地域コーディネーター 川村 宏

地方創生・研究推進課 総括主査 佐々木 繁男

地方創生・研究推進課 主査 今野 悟

地方創生・研究推進課 斎藤 晃子

地方創生・研究推進課 成田 由佳

4. 次第

(1) 開会あいさつ

(2) 外部評価委員会委員及び秋田大学関係者紹介

(3) 外部評価委員会委員長の選出

(4) 外部評価実施要領について

(5) 自己評価書等に基づく説明及び質疑応答

(6) 外部評価結果とりまとめ

(7) 評価結果発表および外部評価委員からの講評

(8) 閉会あいさつ

5. 配付資料

(1) 平成29年度COC事業に関する外部評価実施要領

(2) 秋田大学COC事業 平成29年度 自己評価書

(3) 秋田大学COC事業報告書〈平成29年度〉

(4) 地域志向教育研究経費成果報告書 平成29年度

(5) 秋田大学COC事業 平成29年度地域志向教育研究経費申請書

Ⅱ. 外部評価結果一覧表

	委員A	委員B	委員C	委員D	委員会
テーマ1 高齢社会における安全安心な地域づくり					
課題1 豪雪地帯の積雪寒冷期における地震防災	4	4	4	4	4
課題2 広い低平地における津波対策	4	4	4	4	4
テーマ2 高齢者に安心を提供する医療看護による地域づくり					
課題1 在宅看護・医療を考える地域ネットワークの形成	4	4	4	4	4
テーマ3 地域文化振興による元気な地域づくり					
課題1 鉦山の隆盛がもたらした阿仁文化の現代への活用 ＜阿仁の今昔物語＞	4	4	4	5	4
課題2 豊川小学校跡地を活用した、地域住民の心のよりどころとなる多目的交流施設等による地域活動の活性化	4	4	4	4	4
共通項目（事業の運営・情報発信等）	3	3	4	4	4
地域志向教育研究経費を活用した事業	4	4	4	4	4
全体評価	4	4	4	4	4

評価基準

評点	評価の視点	達成状況
5	年度計画（地域志向教育研究経費は事業計画と読み替え以下同様とする）を上回って事業実施がなされている。	計画達成度合100%超かつ特筆すべき成果あり
4	年度計画に則して十分に事業実施がなされている。	計画達成度合90%以上
3	年度計画に対して概ね事業実施がなされている。	計画達成度合70%以上
2	年度計画に対して事業実施が不十分である。	計画達成度合50%以上
1	年度計画に対して事業実施が大幅に下回っている。	計画達成度合50%未満

Ⅲ. 各外部評価委員の講評

(テーマ1) 高齢社会における安全安心な地域づくり

(課題1) 豪雪地帯の積雪寒冷期における地震防災【横手市】

- ・フィールドワークも展開しながら、効果的・実証的な教育が行われている。
- ・防災システムの基礎知識修得科目と地域の協力に基づくフィールドワークにより、雪国の災害に関する理解が深まるように計画通り実施されている。
- ・学校の生徒や地域の住民に対して積極的な情報発信を行い、防災意識向上に貢献した。
- ・研究成果の一部が横手市ハザードマップに取り入れられるなど、評価すべき実績をあげている。
- ・高齢社会化が進む地域の現状に沿った具体的な提案がなされるなど、計画に即した事業実績が認められる。
- ・年間を通して小学校、中学校、高校、住民を対象に防災講話を開催し、防災意識向上に貢献するなど計画に即した事業実績が認められる。
- ・教育面においては一定数の学生が関連科目を受講しているほか、平成29年度までの研究(事業)の成果として平成30年度に作成され全戸に配布された防災マップにより積雪期の地震発生時の危険度等が周知されるなど、計画どおりに取組が実施されていると評価する。
- ・取組の成果が住民に伝わり、いざという時に実践されることが最も重要であり、その点において全戸配布の「横手市ハザードマップ」に研究内容が掲載される至ったことを高く評価します。

(テーマ1) 高齢社会における安全安心な地域づくり

(課題2) 広い低平地における津波対策【潟上市】

- ・多くの受講生へ講義を行い、将来の防災リーダーの育成をはかった。
- ・防災教育に関する演習実習を主体とした授業、地震・津波の履歴調査に関する演習が計画通り実施されている。
- ・潟上市に対し防災教育モデルを提言するとともに、市民の防災意識向上につながる講話を行い、広い低平地における津波対策に寄与した。
- ・多くの防災教育と防災講話を実践し、地域住民や自治体関係者の防災意識の向上に資するとともに、今後の津波対策における指針を提示した。
- ・一定数の学生が関連科目を受講していることと併せ、地元自治体・学校との協働により事業が推進されたこと、その成果が地元や他の自治体に還元されていること等により、計画どおりに取組が実施されていると評価する。
- ・防災教育モデルの提言、過去の巨大津波の履歴に基づく市民の防災意識高揚活動の提言がなされ

るなど、計画に即した事業実績が認められる。

- ・年間を通して保育園、小学校、中学校、高校、住民を対象に防災講話を開催し、防災意識向上を図るとともにフォーラムを開催し一般市民に成果を発表するなど計画に即した事業実績が認められる。
- ・取組の成果が住民に伝わり、いざという時に実践されることが最も重要であり、今後も該当地域の行政及び住民への継続的な情報提供に尽力されるようお願いします。

(テーマ2) 高齢者に安心を提供する医療看護による地域づくり

(課題1) 在宅看護・医療を考える地域ネットワークの形成【横手市】

- ・演習・実習のほか、高齢者から体験談を聞くなど効果的な教育により、コミュニケーション能力の向上などがはかられた。
- ・看護職の基礎的能力および実践能力、コミュニケーション能力の向上を目指して、看護に関する統合実習・演習、聞き書きボランティア養成講座が、当初の計画通り実施されている。
- ・意見交換や実態調査の結果を踏まえた研究成果を横手市へ提案し、今後の政策形成に寄与した。
- ・実態調査に基づく住民意識に関する基礎データの取りまとめと自治体への提供、地域医療ネットワーク構築および新たな在宅ケアモデルの構築の提言がなされるなど、計画に即した事業実績が認められる。
- ・「地域での聞き書きボランティア養成事業」はCOC+事業に引き継がれ、超高齢社会・人口減少社会における若者の養成に貢献している。
- ・聞き書きボランティア養成講座を通じて高校生などの若者の意識高揚を図るなど社会貢献活動が実践されていると評価する。
- ・在宅看護・医療に関しては、当事者、その家族、医療関係者（医師、訪問看護師等）だけでなく、介護や生活支援といった面で関係する専門職や関係機関が多様に存在し、多職種が連携することが求められている。こうした、そもそも難しい問題について、自然環境、社会的環境が厳しい地域の実情を学生が知る機会を得られたことは、大変貴重な機会であったと考える。また、看護職が地域における課題等について協議することに、地元の行政（包括支援センター）が関与する契機ともなっている。こうしたことから、計画どおりに取組が実施されていると評価する。
- ・4年間の事業を通じて、横手市の訪問看護従事者などの意識がより高まってきたものと認められますので、これをモデルとして全県的な取組に拡大する必要性を感じました。

(テーマ3) 地域文化振興による元気な地域づくり

(課題1) 鉱山の隆盛がもたらした阿仁文化の現代への活用〈阿仁の今昔物語〉【北秋田市】

コメント

- ・阿仁地区の歴史・文化に関する講義を行い、地域文化の魅力を発見する力などを養成した。
- ・地域文化の魅力発見と課題に向き合う力を養成するために、阿仁地域の歴史文化に関する授業が計画通り実施されている。
- ・阿仁鉱山の歴史文化資料を整理・分析したうえで、その成果を企画展示した。
- ・阿仁鉱山の歴史文化資料を整理し、企画展示を開催するなど、計画に即した事業実績が認められる。
- ・フォーラムや企画展の開催により研究成果を発信し、多くの集客を行うことで地域の活性化に大いに貢献した。
- ・先人の苦労や知恵、業績を整理して後世に伝えることは大変重要であり、意義のある取組であるとする。地域の内外、幅広い世代が阿仁地区の歴史・文化資料にアクセスしやすい環境の整備や、地域の若い世代の伝統芸能継承に資する取組が行われている。こうしたことから、計画どおりに取組が実施されていると評価する。
- ・阿仁鉱山に関する歴史・文化資料の企画展の開催した他、データベース化を図るとともに「阿仁からめ節」の3D映像化、阿仁鉱山資料のDVD化により、若い世代の郷土や伝統芸能への関心を高める事業実績は特筆されるべき成果と評価する。
- ・秋田大学の伝統を活かし、鉱山にまつわる歴史・文化に光を当て、伝統芸能の伝承・高齢者の元気・交流人口増加などに結びつけた取組として高く評価します。

(テーマ3) 地域文化振興による元気な地域づくり

(課題2) 豊川小学校跡地を活用した、地域住民の心のよりどころとなる多目的交流施設等による地域活動の活性化【潟上市】

- ・農村に深く入り込んだ授業が行われ、農村のくらしや地域づくりに対する理解が深まった。
- ・農村の地域づくりや農村地理学の基本を学び、地域活動の意義を理解するための授業が、計画通り実施されている。
- ・一定数の学生が関連科目を受講又は交流会等に参加しているほか、事業の成果として報告書も作成されており、計画どおりに取組が実施されていると評価する。
- ・潟上市草木谷を事例にした地域再生研究成果を学会で発表するとともに報告書として取りまとめしており、計画に即した事業実績が認められる。
- ・成果発表や報告書により、地域再生に関し有意義な提言を行った。

- ・地域住民などに対し有意義な提言を実施し、社会貢献を行っている。
- ・学生参加型の地域再生方策に関する成果発表会を地域住民や一般市民を対象に開催して取り組み成果を発信しており、計画に即した事業実績が認められる。
- ・担当教員が休業及び異動とのことで、直接お話が聞けなかったことは残念でしたが、秋田の偉人に関する研究に今後も取り組んでいただきたいと思います。

共通項目（事業の運営・情報発信等）

- ・今年の2月23日に成果発表会を開催し、連携自治体、自治体関係者のほか、一般県民に対して当該事業の成果について情報発信を行っている。その内容は優れたものであった。一方で、自己評価が遅れ、各事業の進捗状況の把握や軌道修正の要否判定を行う機会を逸したことは残念である。
- ・事務局の事業運営については全体的に概ね適切であると認めましたが、外部評価未実施の点を踏まえて評価点を決定しました。
- ・3テーマに関する成果発表会を開催し、連携自治体や一般県民に今後の高齢化社会に向けた課題と課題解決の方向性を認識する機会を提供するなど、当初計画に即した事業実績が認められる。運営では、最終的な外部評価の実施には至らなかったが、平成29年度外部評価が企画された。
- ・COC事業によりモデル的に取り組んだ事業の成果を連携自治体以外の地域にどのように波及させていくかは重要なことであると考えている。こうした意味では、課題ごとに地元におけるフォーラム・イベントやCOC事業の成果発表会が開催されるとともに、大学ホームページによる情報発信が行われており、評価できる。

地域志向教育研究経費を活用した事業

- ・どの研究も、地域の課題や問題に向き合っテーマを選定したうえで、積極的かつ有意義な取り組みを行い、地域貢献を実践している。
- ・18課題いずれも今後の秋田県にとって極めて重要なテーマに取り組んでいる。いずれの課題とも地域志向を重視した成果をあげ、事業計画に即している。
- ・本県の地域に根差した課題について、教員の方々が、学生の目を向けさせるとともに、自身の専門分野を活かしながら課題解決の方策について研究を深めていただくことは大変有益な取組であるとする。こうした意味から、大学全体として地域志向の教育研究に一定の資金が投入され、多くのテーマが設定されて成果が上げられていることを評価する。また、今後もこうした活動が継続されることを期待している。
- ・今後とも、地域志向の教育研究に重点的に取り組まれ、秋田県の重要課題の解決に向け寄与していただくとともに、秋田の地で活躍する人材の育成に力を入れてくださるようお願いいたします。

全体評価

- ・事業全体としては、「地（知）の拠点整備事業」の趣旨に則りつつ、計画に即して十分に事業実施がなされており、「秋田県と秋田県民に対する愛」がひしひしと伝わってくる事業ばかりであり、携わった教員や学生の皆さん、並びに関係者、協力・連携機関の皆さんに敬意を表するものであります。
- ・「教育」では、基礎的能力を養成するための基礎知識修得科目や演習・実習、地域活動の意義を理解するための調査などのフィールドワークが計画通り実施され、実践力やコミュニケーション能力の向上が図られている。「研究」では、高齢社会に向けた提案、防災教育モデルや市民の防災意識高揚活動の提言、地域医療ネットワーク構築と新たな在宅ケアモデルの提言、阿仁鉱山の歴史文化資料の企画展示、潟上市草木谷を事例にした地域再生研究成果のとりまとめなど、秋田の課題解決に向けた事業実績が認められる。「社会貢献」では、保育園、小学校、中学校、高校、住民など地域の多様な人々への講話、学生参加型の地域での成果発表会、地域の歴史文化資料のデータベース化、3D 映像化、DVD 化などにより、連携自治体や一般県民に秋田県の課題と課題解決の方向性を示すなど、当初計画に即した事業実績が認められる。「運営」では、最終的な評価の実施には至らなかった。
- ・全体として、教育、研究、社会貢献の各面において、計画に沿った事業が十分に実施されていると評価する。COC事業や現在のCOC+事業の成果を、連携して取り組んだ自治体以外の地域へ発信していくことが重要であると考えている。また、大学による社会貢献として、学生の教育と併せ、地域課題の解決に向け、研究成果に基づくこれまでにない新たな知見、新たな取組につながる情報を発信することも重要である。こうしたことから、今後も、多様な手段による積極的な情報発信、自治体への支援、COC事業の取組を発展させた新事業の展開や新事業への支援等をお願いしたい。
- ・3つのテーマは、いずれも秋田県に特有の課題や誇るべき地域資源に着目したものであり、県内各地のフィールドで事業を展開していただいたことに敬意を表します。この取組が今後、地域に根付きあるいは全県に波及していくことが重要であり、後継事業のCOC+なども活用し、引き続きフォローしていただきたいと思います。COC+においては、県内の高等教育機関が連携して対応することになりましたが、少子化が進行する中で県内高等教育機関の存在感が増していくよう、そのリーダーたる秋田大学には今後一層の取組をお願いします。

IV. 平成29年度COC事業に関する外部評価実施要領

1. 目的

秋田大学COC事業の達成状況や成果等について、外部有識者から検証を受けることにより、後継事業であるCOC+事業の質の向上、事業運営の効率化及び透明性の確保に資することを目的とする。

2. 外部評価の体制

(1) 外部評価は外部評価委員会により実施することとし、外部評価委員会は次の委員により構成する。

- ① 秋田県 あきた未来創造部長 湯元 巖
- ② 社会福祉法人秋田県社会福祉協議会 事務局長 佐藤 寿美
- ③ 一般財団法人秋田経済研究所 専務理事 相原 学
- ④ 公立大学法人秋田県立大学 生物資源科学部長 金田 吉弘

(2) 外部評価委員会に委員長を置き、委員の互選により定める。

3. 外部評価の実施方法

(1) 外部評価委員は自己評価委員会が作成した「自己評価書」及び外部評価委員会における秋田大学COC事業関係者の説明及び質疑応答に基づき、別紙様式の評価シートにより、次に記載の「(i) 3つテーマのもとに設定された5つの課題」、「(ii) 共通項目(事業の運営・情報発信等)」、「(iii) 地域志向教育研究経費を活用した事業」および事業全体について、次の評価基準により評価する。

(2) 評価対象及び評価基準

① 評価対象

(i) 3つテーマのもとに設定された5つの課題

1	テーマ1 高齢社会における安全安心な地域づくり 課題1 豪雪地帯の積雪寒冷期における地震防災【横手市】
2	テーマ1 高齢社会における安全安心な地域づくり 課題2 広い低平地における津波対策【潟上市】
3	テーマ2 高齢者に安心を提供する医療看護による地域づくり 課題1 在宅看護・医療を考える地域ネットワークの形成【横手市】
4	テーマ3 地域文化振興による元気な地域づくり 課題1 鉾山の隆盛がもたらした阿仁文化の現代への活用〈阿仁の今昔物語〉【北秋田市】
5	テーマ3 地域文化振興による元気な地域づくり 課題2 豊川小学校跡地を活用した、地域住民の心のよりどころとなる多目的交流施設等による地域活動の活性化【潟上市】

(ii) 共通項目(事業の運営・情報発信等)

運営	自己評価委員会を踏まえた上での外部評価委員による評価を実施する。
情報発信等	全県域を対象としたCOC事業まとめのフォーラムを開催する。

(iii) 地域志向教育研究経費を活用した事業

	氏名	所属	タイトル
1	本山 悟	医学系研究科 医学専攻特任教授	がん登録データ解析による秋田県2次医療圏ごとのがん対策施策の提言—日本一のがん早期発見割合を目指した取り組み—
2	武田 篤	教育文化学部 学部長	教育文化学部地域文化学科コアカリキュラムにおける地域連携型教育プログラムの拡充
3	菅原 正伯	医学部附属病院 神経内科講師	認知症患者包括支援システム構築に向けての認知症早期集中支援チーム員になり得る、薬剤師・歯科衛生士育成、ならびに模擬患者指導による市民認知症サポーター育成
4	渡邊 一也	理工学研究科 土木環境工学コース講師	浮体式津波避難シェルターを利用した津波避難
5	田口 正美	理工学研究科 物質科学専攻教授	秋田県の風力と地熱を利用した高温型H2O電解システム構築のための基礎研究
6	猪股 祥子	医学系研究科 保健学専攻助教	「認知症になっても安心して暮らせる若者参加型地域づくり」
7	水田 敏彦	地方創生センター教授	積雪寒冷地の地震防災・防災教育を推進するための調査実習—横手市を中心として—
8	宮野 素子	教育文化学部 地域文化学科准教授	仙北市小規模小学校における学生実習と児童の学力・学習意欲向上対策を統合した地域貢献型教育研究プロジェクト
9	今井 忠男	国際資源学研究科教授	阿仁鉱山の近世の発達と近代の大変革によるその後の衰退について (その4)
10	平田 未季	国際交流センター助教	文化誌作成プロジェクトによる地域活性化の試み：秋田大学生と豊川住民の共同型プロジェクトワークの実施と留学生の地域活動への参加
11	網田 和宏	理工学研究科附属 理工学研究センター教授	白神山地の窒素飽和に関する学術調査を活用した環境理解のための取り組み
12	布村 渉	理工学研究科附属 理工学研究センター准教授	ハタハタ卵(ブリコ)の色素結合蛋白質の性状解析を基盤にした地域志向型生物学教育の確立
13	萩原 史朗	教育文化学部 地域文化学科准教授	クルーズ船誘致と秋田の地方創生に関する理論および実証研究
14	篠原 秀一	教育文化学部 地域社会講座教授	秋田県山間地域における食生活文化の構成・継承と自立性に関する地理学的研究—北秋田市阿仁地区・藤里町・湯沢市皆瀬地区—
15	利 緑	医学系研究科保健学専攻 臨床看護学講座助教	地域終末期ケア向上をめざした研修会実施とその効果検討
16	川村 教一	教育文化学部教授	北秋田市南部におけるマタギ文化の地域資源的価値の分析と情報発信
17	鎌滝 孝信	地方創生センター准教授	広い低平地における津波対策に関する研究：低平地における防災教育プログラムの検討と地域で活躍する防災リーダーの育成
18	足立 高弘	理工学研究科システム デザイン工学専攻教授	寒冷地に潜む冷熱エネルギーの抽出と雪害対策への利用

② 評価基準

評点	評価の視点	達成状況
5	年度計画（地域志向教育研究経費は事業計画と読み替え以下同様とする）を上回って事業実施がなされている。	計画達成度合100%超かつ特筆すべき成果あり
4	年度計画に則して十分に事業実施がなされている。	計画達成度合90%以上
3	年度計画に対して概ね事業実施がなされている。	計画達成度合70%以上
2	年度計画に対して事業実施が不十分である。	計画達成度合50%以上
1	年度計画に対して事業実施が大幅に下回っている。	計画達成度合50%未満

(3) 外部評価委員会は、各外部評価委員の評価結果に基づき協議し、外部評価委員会としての評価結果を決定する。

(4) 外部評価委員会は、評価結果を取りまとめた「外部評価書」を作成し、秋田大学長に報告する。

4. 外部評価委員会開催要項

(1) 日 時：平成30年11月30日（金）10:00～12:00

(2) 場 所：秋田大学百周年記念館2階会議室

(3) 進行次第

- ① 開会あいさつ
- ② 外部評価委員および秋田大学出席者紹介
- ③ 委員長選出
- ④ 自己評価書等に基づく説明及び質疑応答
 - ア) 3つテーマのもとに設定された5つの課題について
 - イ) 共通項目（事業の運営・情報発信等）及び地域志向教育研究経費を活用した事業について
 - ウ) 全体評価について
- ⑤ 評価結果取りまとめ
- ⑥ 評価結果と各委員からの講評
- ⑦ 閉会

(4) 出席者予定者

【外部評価委員】

- ① 秋田県 あきた未来創造部長 湯元 巖
- ② 社会福祉法人 秋田県社会福祉協議会 事務局長 佐藤 寿美
- ③ 一般財団法人 秋田経済研究所 専務理事所長 相原 学
- ④ 公立大学法人 秋田県立大学 生物資源科学部長 金田 吉弘

【秋田大学COC事業関係者】

- ① 理事 志立 正知
- ② 地方創生センター教授 水田 敏彦
- ③ 地方創生センター准教授 鎌滝 孝信
- ④ 医学系研究科教授 中村 順子
- ⑤ 国際資源学研究科教授 今井 忠男
- ⑥ COC+推進コーディネータ 高橋 訓之
- ⑦ 地域コーディネータ 川村 宏

以 上

V. 外部評価委員会資料

1. 秋田大学COC事業 平成 29 年度 自己評価書
2. 秋田大学COC事業報告書〈平成 29 年度〉
3. 地域志向教育研究経費成果報告書 平成 29 年度
4. 秋田大学COC事業 平成 29 年度地域志向教育研究経費申請書